

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

<p>解答形式 論述 (1行30字 1行×1 2行×2、3行×4、4行×1 計21行) 分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 出題の特徴 第2問～第4問の出題形式は例年通りであった。昨年度の第1問は、条件文利用の出題形式ではなく指定語句を利用した問題であったが、従来の条件文利用の出題形式に戻った。 その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など) 夏期講習の「東大日本史」で第1問は同様のテーマを扱っており、受講生は取り組みやすかったであろう。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 A 1行 B 4行	A 平安中期の上級貴族に求められた能力 B 平安貴族が日記を書いた目的	設問の要求に応じて、与えられた文章を丁寧に読み込んでまとめれば解答は構成でき、難しくはない。山川出版社『新日本史B』のコラム「貴族の日記」を読んでいた受験生は、取り組みやすかったであろう。	やや易
第2問	論述 A 2行 B 3行	A 承久の乱後の朝幕関係 B 両統迭立と鎌倉幕府	A・Bとも、基本的な知識で解答できる。	やや易
第3問	論述 A 2行 B 3行	A 貿易の制限と殖産興業 B 殖産興業と消費生活の動向	A 設問文の条件に「貿易との関連で」とあるので、解答は絞りやすかったであろう。 B 生糸・朝鮮人参・砂糖が高級品であること、それらを購入できる富裕者層が増加したことをしっかり指摘したい。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	A 大戦景気と機械工業の発展 B 特需景気と機械工業の発展	A 文章(1)の「その他の機械類の製作業」を具体的にイメージできたであろうか。 B サンフランシスコ平和条約の発効(1952年)が、朝鮮戦争に伴う特需景気の時期にあたることを判断できたかがポイント。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>代表的な過去問に目を通し、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、夏期講習段階で予想問題にチャレンジすること。また、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。</p>
